

2026年3月21日(土)オンライン開催

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット

ト2025年度 日本語プログラム開発事業報告会 小中学校部会

技能・タスク型プログラム 活動・ユニット 実施例

中学3年生

『お礼の手紙を書く』 —書く—

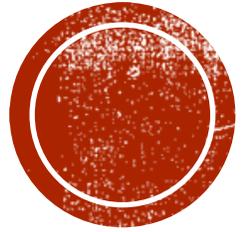
本資料の利用について
教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

葛飾区立新小岩中学校

日本語学級

渡邊 順子





活動・ユニット案



タスク：お礼の手紙を書く

①対象生徒（想定）

- ・ 中学3年生（学期末の他学年も可）
- ・ 来日後2年半～
- ・ 「聞く・話す・読む・書く」すべてにおいてステップ4～5、ステージD～E

②学習時間・形態と指導環境

- ・ 全3時間
（50分×1回、40分×2回）で実施
- ・ 少人数グループor個別指導
- ・ タブレット活用（翻訳・マッピング等）で内容構想を支援
- ・ 敬語対応表／手紙モデルを掲示・配布し、安心して書ける環境に

本実践の目標（CAN-DO）

相手に対する敬意を表す表現を使って、感謝の気持ちを手紙で伝えることができる。

学習の流れ

- ① 敬語の種類
(尊敬語・謙譲語・丁寧語)の確認
→ 話す活動(ロールプレイ)
から書く活動へ接続
- ② 手紙の形式理解・内容構想
- ③ 下書き・推敲
- ④ 完成・手渡し

学習方略

- ① 上下関係と丁寧語・尊敬語・謙譲語の使い分けを図式化して理解する
- ② 構成を次の手順で決める。
書きたい内容を書き出す
→ 選ぶ
→ 並べ替える
- ③ 定型表現やモデル文を活用する
- ④ 手紙のサンプルに照らして、自身の手紙の推敲を行う。

指導上の留意点と工夫

- ・卒業前の時期に設定し、学習への動機づけとする
- ・敬語表現はよく使われるものに絞り、語形変化と使い方を紹介する。敬語表現の文型を示しておく
- ・タブレット端末の翻訳機能を使ってもよいこととする
- ・分量は日本語力に応じて調整し、モデル文・動画で視覚的支援を用意

アイデア

☆生徒の多様性に応じて

理解に動画等の視覚的情報が必要な場合には、敬語に関する動画（NHK for school）を視聴する。

☆教科横断的な指導

国語科の「通信文の書き方」「敬語表現」と関連付けて実施できる。

ここで学習した内容は、案内文や作文など他の書く活動に応用できる。

■ 実践紹介

～生徒3人の実践から～



教材①

①敬語についての動画

NHK for schoolの

[目上の人と話すとき | お伝と伝じろう | NHK for School](#)

を示す。

尊敬語・謙譲語・丁寧語について図式で理解する。

②時候の挨拶

3月の時候の挨拶
早春の候
春暖の候
春和の候



教材②

①普通体の手紙 ← 比較する → ②敬体の手紙

③違ったところに線を引く



事例① 生徒A（ネパール出身）

学習者

中学1年生。来日1年10か月。聞く・話す・読むはステップ4、書くは3.5。漢字を書くことが難しいが、日本語で自分の考えを表現できる。

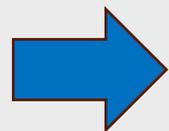
支援の工夫：時間構成の調整と時候の挨拶の例

☺既習の敬語は重複を避け、2時間目を40分→50分へ拡張。構想～下書きを一気に行い、最後10分で推敲。

○時候の挨拶を例示する。

相手に合わせて書く内容を決める

清書する



授業者が既習の事柄に結び付く問いかけや課題の設定をすることで、生徒は既習事項を想起し、学びを深めることができた。



事例② 生徒B（中国出身）

学習者

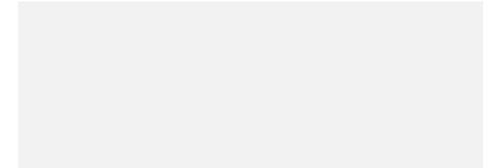
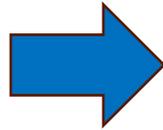
中学3年生。中国につながる生徒。来日3年2か月。聞く・話す・読むはステップ3、書くは3.5。発話は多くないが、自分の考えや感情を母語で表現できる。

支援の工夫：型を示し、内容の充実を図る

手紙全体の型を先に提示。頭語・結語や時候の挨拶はモデル文を活用し、内容の言語化（感謝したい点・印象的経験）に重点化した。

相手に合わせて書く内容を決める

清書する



来日当初の集中できない時期と、精神的に支えられた経験を振り返り、教師への感謝を具体的に表すことができた。



事例③ 生徒C（バングラデシュ出身）

学習者

中学3年生。来日2年3か月。技能は概ねステップ3で、経験や感情を母語で表現できるが、日本語で文章化することが難しい。

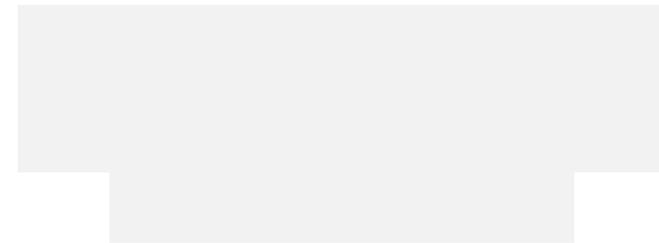
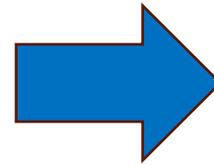
支援の工夫：

型を示し、書きたい内容の充実を図る

手紙の構造を先に提示し、「どこに何を書くか」を視覚・手順で理解できるようにした。感謝の対象を1人に絞り、「いつ／教科／支援内容」を対話で特定し、短いメモに整理してから文章化。

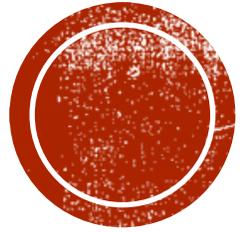
相手に合わせて書く内容を決める

清書する



日本語コーディネーターに対して、数学指導・面接練習への感謝を、翻訳機能を活用しながらも、自分の言葉で丁寧に表現できた。定型を活用したことで、内容を充実させて書くことができた。





実践の成果と示唆

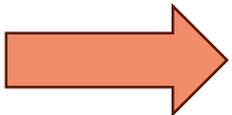


成果

- ・ 適した時期に課題を設定したことで、目的意識をもって、自ら書こうとする場の設定ができた。
 - 手紙の相手を自分で決定 = 動機・意欲の持続
- ・ 授業者との対話や発問を通して、既習事項に気づき、活用することができた。
- ・ モデル文や形式の意識化で、型を利用する力を発揮させられた。
また、それによって内容を充実させることができた。

今後の課題

- ・ 他の案内文や作文への発展
- ・ 教科や総合的な学習の時間との連携



- ・生徒にとって意味・価値のあるタスクを設定することが重要である。
- ・形式や文章構成の意識化により、構想する力・表現する力が育める
- ・支援の方法（手だて）をあらかじめ複数用意しておくことで、生徒の様子や対話に応じて、適した支援を選択的に実施できる。

「書く」力を
高めるための
学習デザイン

技能・タスク型プログラムの活動・ユニット案

上記を意識してデザイン → 生徒が、日本語学習に意味を見つけられる。
自己効力感や、自律的に学ぶ力を得られる。

3名の異なるタイプの生徒でも実施可能

→ 対象生徒の実態に応じて、微調整で活用することが可能。

